

**農中総研フォーラム**  
食料安全保障と不測時対策～いざという時の備えと法制化～

# **消費者の立場からの問題提起**

---

2024年4月16日

日本生活協同組合連合会

二村 瞳子

# 前提として

---

- 国内農業生産力の強化
  - 相互に健全な貿易による国際友好関係の構築
  - 適切な備蓄とその管理、活用
- のそれぞれが重要（食料・農業・農村基本計画の大方針）

# 課題 1：情報の非対称性への対処

---

## ■目的

パニックを防ぐ

## ■課題

情報の把握→例えば在庫量はどの程度正確にかつタイムリーに把握できるのか？

正確な情報発信と、それが消費者に届くこと⇒日常的な情報発信と信頼醸成の重要性

## ■事例

オイルショック時のトイレットペーパー

灯油裁判

コロナ禍でのトイレットペーパーをめぐるデマへの対応

# 課題 2：マイナス影響の連鎖を防ぐ

---

## ■目的

「事態」を契機にした（他物品も含めた）価格高騰、買い占め、闇取引などを防ぐ

## ■課題

制度の周知、正確な理解

宣言時のコミュニケーション（用語の使い方、チャネルなども含む）

C to Cプラットフォームの規範・ルールづくり

## ■事例

気象災害のコミュニケーション

C to Cプラットフォームでの「転売」事案

# 課題 3：サプライチェーン上の脆弱性

---

## ■目的

「食料はあるけれど必要な人に届かない」という事態を防ぐ

## ■課題

国内外を問わずサプライチェーンの現状を把握する⇒リスクは思いがけないところにある

不測時の対策・シナリオを複数もつ⇒対策の影響と評価も必要

## ■事例

コロナ禍での経験（生協の宅配事業、国際物流など）

能登半島地震の経験から

円安影響の波及（産地・国内工場での人手不足など）

# その他考えておくべきと思われること

---

## ✓国際情勢の不安定化によるサプライチェーンリスクの拡大

～物流リードタイムの延長によるコスト増

～「万が一」在庫の増大による食品廃棄増やコスト増

## ✓人手不足による国内農業の急速な弱体化の懸念

～農業者の急速な高齢化

～円安などによる外国人材の不足

## ✓不測時における公平性・納得性の担保

～市場メカニズムや民-民取引の活用と公的な介入のバランス

～ここでもやはりコミュニケーションが重要